

途上国アルバム：ベナン：湖のある生活～北の民族文化～ブドゥー教

浪川真祐子
青年海外協力隊ベナン隊員

青年海外協力隊として、2016年9月末から西アフリカのベナン共和国に派遣されています。ベナンはナイジェリアとトーゴの間に位置する元フランス領の小さな国で、私は南西部のモノ県ボパ市に住んでいます。栄えた市ではありませんが、大きな湖を貴重な生活資源とするのがこの地の特徴です。釣り人は、魚、カニ、時にはエビを湖から獲り、人々はそれらを調理して食します。また、木でできた小舟は対岸の市と繋がる立派な交通手段の一つで、さらには、湖の近くにミネラルウォーターの工場まであります。そして、その釣りや小舟、湖の上のバーレストランはささやかながら観光資源としても有効活用されているのです。



南国リゾートを思わせる湖畔の景色



釣りや養殖が盛んで魚料理も有名



湖の上に建てられたバーレストラン

また別の場所には、かつて奴隷貿易が盛んだった時期に奴隷として売りに出されることを恐れて逃げた人々が湖の上に作ったという水上集落「ガンビエ」も存在し、今も数万人が暮らしています。アフリカのヴェネツィアとも呼ばれますが、残念ながらまだ訪れていません。先日休みをとり旅行に出かけたベナン北部では、南部とはまた異なる民族文化や自然を楽しむことができました。ベナンでも有数の大都

市であるナチテングーは、経済首都コトヌーからバスで約 10 時間かかる距離にあります。北部にはサファリ（安全上訪問不可）や滝、丘、タタソンバという民族住居や博物館など素晴らしい観光資源が多くあるだけに、国内線の飛行機があればどれほど良いか…と感じました。



ソンバ族の伝統的住居（通称タタソンバ）



藁の屋根を取ると沢山のトウモロコシ



迫力のある岩壁を持つタヌグの滝



きれいに道路が整備されている



山奥の村で木炭を売る人々



イニヤムピレ（ヤムイモをついたもの）

最後にご紹介するのが、ベナン発祥の宗教として知られるブドゥー教です。現状、ベナンではキリスト教・イスラム教も多く信仰されており、中には重複信仰している人もいます。ブドゥー教はあらゆる自然物に精霊がいるとする宗教です（例：ヘビ、雷等）。1月10日の「ブドゥーの祭日」は国の祝日で、各地で催しが行われました。任地ボパ市では「ザンベト」と呼ばれる藁でできた大きな着ぐるみが湖畔や寺の敷地を駆け回り、目を楽ませてくださいました。その他、ヤギとニワトリを生贄にして村民の健康を祈願するセレモニーやお揃いの布を身に付けた方々による踊りも見る事ができました。このようにベナンは伝統的文化が今も色濃く残る魅力に溢れた国です。



ブドゥーのお寺のカラフルな壁画



山奥の村にもお寺は存在する



お祈りするときに油等をかける



砂の上を走り踊るザンベト



湖を渡るザンベト



祭事ではお揃いの布を着用する文化